

島根県西南部におけるクマタカの繁殖状況

上野 吉雄¹⁾・加藤 淳司²⁾・柳瀬 美幸³⁾・田原 博⁴⁾・油野木 公盛⁵⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・²⁾ 日本野鳥の会・³⁾ 岡山県津山市・
⁴⁾ 日本野鳥の会島根県支部・⁵⁾ 広島県神石高原町

The Breeding status of Mountain Hawk-Eagle *Nisaetus nipalensis orientalis* in Southwestern Shimane Prefecture.

Yoshio UENO, Junji KATO, Miyuki YANASE, Hiroshi TAWARA, Kiminari YUNOKI

はじめに

クマタカ *Nisaetus nipalensis* はインド、ネパール、インドシナ半島、台湾、中国東南部、ロシア極東南部、日本に分布し、亜種クマタカ *Nisaetus nipalensis orientalis* は日本と朝鮮半島に分布し、最も北に分布する大型の亜種である(井上 2014)。国内には約 1,800 羽程度しか生息していないとされ、国内希少野生動物種に定められている。また、環境省により絶滅危惧 IB 類に(井上 2014)、広島県により絶滅危惧 II 類に(井原 2012)、島根県により絶滅危惧 I 類に(佐藤 2014)、鳥取県により絶滅危惧 I 類に(岡垣 2012)、岡山県により絶滅危惧 I 類に(丸山・山田 2009)、山口県により絶滅危惧 IB 類に(原田 2019) 選定されている。

筆者らは、2017 年から 2019 年にかけての 3 年間、島根県西南部におけるクマタカの繁殖状況を調査したので報告する。

調査地

調査地は島根県西南部に位置する山林で、南側の尾根は広島県である。標高約 500m から標高約 940m にかけての山林であり、植生は高木層としてブナ *Fagus crenata*、ミズナラ *Quercus mongolica*、ホオノキ *Magnolia obovata*、ハウチワカエデ *Acer japonicum* などが優占し、低木層ではリョウブ *Clethra barbinervis*、ガマズミ *Viburnum dilatatum*、ミズキ *Cornus controversa* など、林床にはチュウゴクザサ *Sasa veitchii* var. *hirsuta* が優占している。鳥類はクマタカ、ハチクマ *Pernis apivorus orientalis*、サシバ *Butastur indicus* などの希少猛禽類が繁殖している。

方法

調査は 2017 年 4 月から 2020 年 2 月までの約 4 年間行った。観察は 8 倍の双眼鏡または 20 倍の望遠鏡を用い、必要に応じて写真撮影を行った。

結果および考察

表 1 に 2017 年 4 月から 2020 年 2 月におけるクマタカの繁殖状況について、図 1 に 5 つがいのクマタカの飛翔図および推定行動圏を示す。

表1 5つがいのクマタカの繁殖状況（2017年－2019年）

繁殖成功：○ 繁殖失敗：× 不明：－

つがい	2017	2018	2019	備考
Aつがい	－	－	－	2020年に成鳥を確認。
Bつがい	○	×	○	2017年は巣立ち幼鳥を確認。 2019年は巣内ヒナを確認。
Cつがい	×	×	×	2019年は巣の下に卵殻確認。
Dつがい	－	－	－	繁殖状況不明。
Eつがい	－	○	○	2018年は当歳の若鳥を確認。2019年は巣内ヒナを確認。

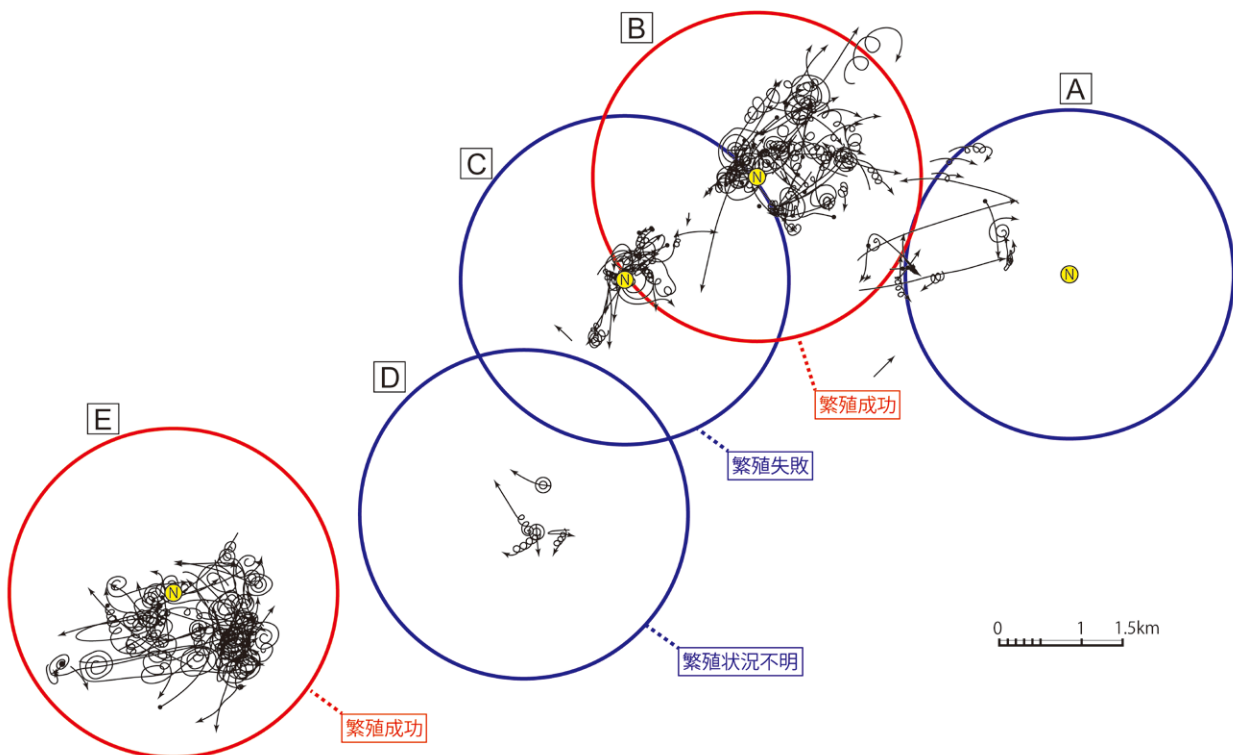


図1 5つがいのクマタカの飛翔図および推定行動圏（2019年） N：巣

Aつがい

調査地の東側のつがいで、2020年から観察を開始した。
2020年2月10日に巣の近くでヤマドリを食べている成鳥を確認した。
2020年2月20日に巣の近くでつがいで飛翔を確認した（図版1-D）。

Bつがい

Aつがいの西隣のつがいで、2017年から観察を開始し、2017年には11月26日に当歳の若鳥を確認した。
2017年7月2日に成鳥を確認した（図版2-F）。
2017年11月20日に当歳の若鳥を確認した（図版1-A）。

2018年2月17日に親鳥が飛びながら若鳥にヤマドリを渡すのを確認した。
2019年7月4日に巣内ビナを確認した(図版2-A)。
2019年8月17日に幼鳥が巣近くの枯れ木に止まっているのを確認した(図版2-B)。
2019年9月19日に幼鳥が営巣谷を鳴きながら飛翔しているのを確認した(図版2-C)。

Cつがい

調査地の中央部のつがいで、2017年から観察を開始し、2017年、2018年、2019年とも繁殖に失敗した。
2019年4月12日につがいの飛翔を確認した(図版2-E)。
2019年7月4日に巣の下で卵殻の破片を確認した。

Dつがい

Eつがいの東隣りのつがいで、巣の位置が確認できておらず、繁殖経過も不明である。

Eつがい

調査地の西側のつがいで、2018年10月から観察を開始した。
2019年1月8日に成鳥を確認した(図版1-B)。
2019年3月18日に昨年生まれの若鳥を確認した(図版1-C)。
2019年7月4日にメスによる巣材運びと巣内ビナを確認した(図版2-D)。
2019年6月4日にへびを運ぶ成鳥を確認した。
2019年12月13日に幼鳥の飛翔を確認した。

以上、筆者らの調査で島根県西南部におけるクマタカの繁殖状況が明らかになった。5つがいのクマタカの行動圏は約4km毎にあり、きわめて高密度に生息していることが明らかになった。繁殖成績もBつがいでは2017年と2019年に成功した。また、Eつがいでは2018年、2019年と2年続けて繁殖に成功した。

調査地の周辺には風力発電施設があり、また、複数の計画が立案されている。調査地の北側尾根には風力発電機29機が既に稼働している。前述したように巣が既設の風力発電機に最も近接しているDつがいでは3年連続して繁殖に失敗している。既設の29機のすぐ南側の尾根にも17機の風車の建設が計画されている。さらに、調査地の西側尾根にも15機の風車の建設が計画されている。これらの風車すべてが建設されると、バードストライクのみならず繁殖阻害などによる生息地放棄をとおして、調査地内のクマタカ個体群への影響が懸念される。

謝辞

本研究の遂行にあたり、調査にご協力いただいた川内信忠氏、高木茂氏をはじめとする広島県北広島町八幡地区の方々、佐藤仁志支部長をはじめとする日本野鳥の会島根県支部の方々、調査地の地図を作成していただいた芸北高原の自然館主任学芸員の白川勝信博士に心からお礼を申し上げます。

引用文献

- 原田 量介(2019)クマタカ。(山口県 編)レッドデータブックやまぐち2019ー山口県の絶滅のおそれのある野生生物ー, 81. 山口県環境生活部自然保護課, 山口
- 井原 庸(2012)クマタカ。(広島県 編)広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー, 69. 広島県, 広島
- 井上 剛彦(2014)クマタカ。(環境省 編)レッドデータブック2014ー日本の絶滅のおそれのある野生生物ー 2 鳥類, 94-95. ぎょうせい, 東京

- 丸山 健司・山田 信光 (2009) クマタカ. (岡山県 編) 岡山県版レッドデータブック 2009 -絶滅のおそれのある野生生物-, 62. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山
- 岡垣 大志 (2012) クマタカ. (鳥取県 編) レッドデータブックとっとり改訂版-鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物-, 46. 鳥取県生活環境部公園自然課, 鳥取
- 佐藤 仁志 (2014) クマタカ. (島根県 編) 改訂・しまねレッドデータブック 2014 動物編-島根県の絶滅のおそれのある野生動物-, 42. しまね自然と環境財団, 大田

図版 1



- | | |
|-------------------|-------------|
| A : Bつがいの当歳の若鳥 | 2017年11月26日 |
| B : Eつがいの成鳥 | 2019年1月8日 |
| C : Eつがいの昨年生まれの若鳥 | 2019年3月18日 |
| D : Aつがいの成鳥 | 2020年2月20日 |



A : Bつがいの巣内ビナ 2019年7月4日
B : Bつがいの若鳥 2019年8月17日
C : Bつがいの当歳の若鳥 2019年9月19日
D : Eつがいの巣内ビナ 2019年7月26日
E : Cつがいの成鳥 2019年4月12日
F : Bつがいの成鳥 2017年7月2日